平成31（2019）年2月発行

最終回　市民ワークショップ「鬼無里地区の公共施設の将来像について考えよう」をテーマにグループ討議を行いました

１月２６日（土）鬼無里活性化センターで、最終回となる第３回「鬼無里地区の公共施設を考える」市民ワークショップを開催しました。

前回の内容を振り返った後、活発なグループワークを行い、各グループからまとめの発表がありました。信州大学工学部の佐倉助教からの講評、住民自治協議会の有澤会長のあいさつ、長野市の倉石総務部長から御礼のあいさつの後、参加者全員で記念撮影を行い、鬼無里地区のワークショップは幕を閉じました。関係者の皆さま、ありがとうございました。

3回のワークショップでは、信大 佐倉研究室の学生も交え、地区の将来像や自分たちにできることなどを話し合い、グループごとの公共施設の再配置や利活用案を、短い時間の中でまとめていただきました。（詳細は次ページをご覧ください）

今後、具体的な再配置等に向けた検討につきましては、今回のワークショップでいただいたご意見等も参考に、地域の皆さまや、広く市民の皆さまのご意見をお聴きしながら協議を重ねてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

今回のワークショップは、鬼無里地区住民自治協議会のご協力のもと、公募及び地区内からご参加いただいたメンバーで、熱い討議を重ねていただきました。

ワークショップの資料は長野市ホームページに掲載しています
（市民ワークショップのページ）
https://www.city.nagano.nagano.jp/site/koukyou-ws/

市民ワークショップや公共施設マネジメントに対するご意見、ご要望などありましたら、遠慮なく下記までお寄せください。

【お問い合わせ先】
公共施設マネジメント推進課
電話：224－7592
鬼無里支所 電話：256－2211

各グループの施設再配置・利活用案の概要をご紹介します

A グループ　【テーマ】世代をこえた人の集まる拠点づくり

機能活用

鬼無里公民館 →集約→ 支所・活性化ｾﾝﾀｰ ←集約← 若者ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ

空いたままでは鬼無里のイメージが悪くなる ⇒【解体】

親子広場 大いに活用

旧議場活用

支所の空室活用

- 喫茶
- リハビリ、運動
- ヨガ、ダンス教室、フラダンス
- カラオケ、リサイタル、映画　など

リフレッシュルームの再活用

≪効果≫
- 支所空室の活用で若者ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰの機能が使える
- エレベーターがある支所を活用する
- 機能が集中することで便利に！　⇒経費の削減

≪課題≫
- 若者ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ解体によりｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの場がなくなる
- 複合化により管理体制をどうするか
- 市民への周知と意識の変革を
- ふるさとの館。立地は最高だが使えない

≪自分たちにできること≫
- 風通しのいい住民関係
- 自分がまず楽しむ♪

B グループ　【テーマ】鬼無里を知ってほしい！　農業の活性化！

①ふるさと資料館の充実

≪効果≫
- 地区外の多くの人を呼び込む

≪課題≫
- バスの待合所が欲しい
- 東側に駐車場確保
- 情報発信力（人材不足・冬季間の閉鎖）

≪自分たちにできること≫
- 屋台ばやしの音楽を流す
- ＢＧＭとして鬼無里の歌を流す（「裾花エレジー」「裾花民謡」など）
- 祭り等のディスプレイの工夫
- 四季の映像を流す

②農林産物直売施設の開放

≪効果≫
- 農業者の生産意欲が増す
- 商品の充実
- 地区内外の利用者の増加により賑わい創出
- 長野から、おでかけパスポートでどんどん鬼無里に来てもらう

≪課題≫
- 構成員の門戸を広げる
- バスが停められるようにする

≪自分たちにできること≫
- ふるさと資料館との連携（例：スタンプラリーで訪問者を増やす）

C グループ　【テーマ】高齢者から若者まで安心して長く住み続ける鬼無里

①　若い世代を呼び込む・冬季限定の集合住宅 ⇒ 今ある住宅を有効活用

- 移住希望者の体験移住ができる施設
- 若者向けの住宅、高齢者が冬季過ごす家　など

②　行政の拠点

鬼無里公民館【解体】 →集約→ 支所 ←集約← 若者ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰたんぽぽ【解体】

- 高齢者の集まる場所が必要
- 使えない、使わない施設は潰す　など

③　連携

ふるさと資料館
ふるさと体験館
農林産物直売施設

- 情報発信基地、直売所、物産展、体験学習 等の拠点とする
- 道の駅化により人を呼び込む
- 民間の飲食店との連携
- 交通の拠点。ﾊﾞｽﾀｰﾐﾅﾙのような機能

≪効果≫
①若者の住宅確保、冬季は避難的な住宅として集まって過ごす
②行政の拠点として支所へ集約
③買物や地場産品の販売、観光、交通の拠点として便利

≪課題≫
①どうやって若者を呼び込むか
②地震でレッドカードの建物(たんぽぽ等)がある支所へ集約の際、地区の避難所の確保が必要
③集約したことにより、交通手段が問題となる

≪自分たちにできること≫
- 販売する地場産品、農産物の生産を多くする
- 地域の課題を話し合う機会をつくる
- イベントの開催
- 鬼無里に住み続ける

D グループ 【テーマ】①支所・活性化センターの充実、②高齢者向けの施設利用、③地区外に鬼無里を発信　市営住宅は移住者向けに開放を

① 支所・活性化ｾﾝﾀｰ ← 移転 鬼無里公民館
＋
コンビニ
郵便局
居酒屋
併設

既存施設の有効活用

議場、地下階の有効活用

②予防介護のための拠点
・男性をあつめる工夫をする（酒、麻雀など）
・地区外の人に「なぜ鬼無里の高齢者は元気なの!?」と思わせることが、地域の魅力になる

③地区外に鬼無里を発信することは、ある意味SOS信号（地域住民だけではできないこともあることを発信）
・フットパス等、鬼無里を体験するイベントがある
・公共施設と公共交通は、地区内向け・地区外向けの組合せが大切

≪効果≫
①支所の利便性が高まる。ワンストップサービス
①地域内の送迎ドライバー（地区内の移動は地域住民で確保することができるのではないか）
②高齢者向け施設利用による介護予防

≪課題≫
①居酒屋のために夜のバスが必要
②法令等により制限があるかも（①も同様）。財政面を含め柔軟に対応
→ｸﾗｳﾄﾞﾌｧﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ等で資金を集めることもできる

≪自分たちにできること≫
・ソフト面の知恵を出す　・お休み処の開設
・地域住民として対外的な活動に参加

E グループ 【テーマ】鬼無里の魅力をどうＰＲするか ―そのための公共施設のあり方―

① 観光PRの強化
・雪かき道場（地区外から人が来て雪かき体験）※冬だけ
・えごまの里
・フットパス

② 旧中学校特別教室棟の活用
・喫茶を兼ねたPR拠点（カフェ的な交流できる場所）
・さっと寄れる場所

③ 支所の市民ホールの活用
広くてイベントができるくらいの市民交流スペース → 若者もお年寄りも使う → そこで鬼無里の活動をＰＲしていく

④ 鬼ら里　・小学生に関わる人たちは行きやすい

≪効果≫
・いろんな世代の人が集まる
・地域のことを知る、話す場所が増える
・みんなが見れる（口コミ）

≪課題≫
①観光場所が分散している
③活性化センター、特に市民ホールには若者は来ないが、お年寄りは来る
③若者とお年寄りが集まる場所が違う
③どんな場所だと若者たちが来るのか
④鬼ら里は、一般の人が使って良いかわからない

≪自分たちにできること≫
・若い人たちの活動をビデオで流す
・高齢者に向けたＰＲ

F グループ 【テーマ】じわじわと鬼無里の魅力にハマっていく ―鬼無里の暮らしをお手軽に!!―

ちょこっと ① 交流の拠点
じっくり ② 交留の拠点
いつでも ③ 交遊の拠点

・住自協で協力を募る。住民の寄り付き処に。
・改修の段階から住民も協力すると周知になる。
草刈・ﾍﾟﾝ等

旧鬼無里中学校
・貸しスペース、宿泊（稼ぐ）
・100円でコーヒーが飲める場所
・地域の人の紹介パネル映像「情報館」

教職員住宅等
・市街地ではできない暮らしができる
・薪ストーブ、ストーブキッチンの体験ハウス
・草刈道場　・作業を楽しいイベントに（参加費徴収）

支所
・ﾘﾉﾍﾞｰｼｮﾝ（開放ｽﾍﾟｰｽをまとめ管理しやすくする）
・子ども議会　・支所内のジムをもっと開放してPR
・もっと宣伝して支所を身近な存在に　・議場ｼｱﾀｰ
・リフレッシュルームや休憩室も貸出対象に

たんぽぽ【解体】壊れて使えない。駐車場や次の利用に

≪効果≫
・知ってもらう　⇒体感する　⇒また来たくなる
⇒住む前に何度も来たくなる
⇒プレ鬼無里人（一緒に何かやってみる）
⇒鬼無里人誕生

≪課題≫
・カネ（参加費や使用料を積極的に徴収する）
・労働⇒楽しいイベントに（草刈道場）
・情報発信　・人
・実現に向けてどうすればいいのか分からない

≪自分たちにできること≫
・改修の段階から住民も一緒に楽しんでやる
・住自協等で協力者を大募集
オフィシャルプロジェクトチーム結成
・住民レベルでもいろいろ模索
・今ある施設を宣伝する（ｼｱﾀｰ、ﾘﾌﾚｯｼｭﾙｰﾑ等）
・あるものを使ってカネかけず、できることからやってみる

参加者アンケートの主な意見をご紹介します

【Aグループ】
◆鬼無里の人間だけでなく、他の人の力も借りて、より住みやすい鬼無里にできるような期待が持てた。もっともっとみんなと話ができたらよかった。若い人の意見も聞きたかった
◆このような活動が今後の政策に具体的に反映されることを望む

【Bグループ】
◆鬼無里に、いろいろ苦労があり困難があることに気づいた
◆公共施設のあり方について今後の考え方が参考になった
◆ワークショップの話し合いを、将来に活かしてほしい

【Cグループ】
◆今後の地域の課題や将来についても語ることができ、今後に活かしていきたい
◆経費（維持管理）の問題が有り、現状維持も難しいと思うが、結果ありきではなく地域住民が参画できる場を継続していただきたい

【Dグループ】
◆現状の使い方に拘らず、住民の有効利用につながる自由な発想へシフトチェンジができた
◆出た意見を集約し、実施に向けた道筋になってほしい！前向きの利用を
◆参加者の多くが支所を拠点と考えていたのが驚いた。行政が地域と共にあることを願う

【Eグループ】
◆ワークショップの意見を正しく、各地区の実情に沿ったように反映させてほしい
◆施設で解体するもの、残すもの、あるものを活かして、将来に施設を活用していくことに考えが変わった

【Fグループ】
◆公共施設→固い、騒げない　自分たち次第で使いやすいみんなが集える場になりえるかも！
◆実際に利用する住民が考えていくことで、新たな利用方法の発想が生まれ、有効活用していけるのではと思うようになった　◆みんな「夢」があるんだなと感じた

【信州大学工学部佐倉弘祐助教の講評】
　ほぼ全ての班で支所の利用が挙げられていたことに驚きました。それだけ鬼無里地区において、支所は拠点としての可能性がある場所であると感じました。今後、世代間を越えた拠点やグループをつくって、施設の統廃合だけでなく、鬼無里の魅力を議論する場ができれば、このワークショップを実施した意味があったのではないかと思います。今回のワークショップはスタート地点であり、今後も話し合いの場が生まれていくことを願っています。

【住民自治協議会　有澤会長あいさつ】
　せっかくのワークショップをぜひ今後に活かして欲しいという声があったので、是非そのようなことができるようにしていきたい。
　地域の現状をみると、暗い方向に進んでいるように見えるかもしれないが、今回のワークショップを通じて、いろいろな可能性があるのではないかと感じました。
　今後、皆さんと相談しながら、知恵を出しながら公共施設のあり方を考えていきたい。

【倉石総務部長から御礼のあいさつ】
　何かとお忙しい中、休日を返上して３回のワークショップにご参加いただきましたメンバーの皆さまに深く感謝を申し上げます。
　人口減少や少子高齢化など、公共施設をとりまく現状と、鬼無里の活性化や多世代交流などを見据えた、大変熱心なグループ討議をいただきました。各グループからいただいたご意見も参考にさせていただき、鬼無里地区にある様々な公共施設の在り方、将来的な再編・再配置を検討してまいります。

鬼無里地区のワークショップ開催に御協力いただいた皆さまに、改めて厚くお礼申し上げます